

## 広島ワークショップ at 広島市安佐動物公園 (2003年2月28-3月2日)

検証プログラム「子どものための動物教育-とってみよう、くらべてみよう、あしがた」

**概要：**体験学習法と呼ばれるインタープリテーション手法を、参加者自身が体験し、また子どもたちへの実践「足型取りプログラム」を通してより理解を深め、同時にこの新規のプログラムの普及を図るという「入れ子状」のワークショップ。1日目午後は実際の体験や、講義を通して体験学習法について学んだ。2日目午前には子ども受け入れの準備を行い、午後からは一般の子ども達が参加し足型取りの下見などを行った。夜は宿舎で子どもたちと一緒に足型取りの予定を立てた。3日目午前中に足型取りを実践し、発表会を開催し、午後はまとめを行った。

**体験学習法：**人間科学研究所の指導のもと、各種アイスブレイクやアクティビティ(「粘土」、「wish poem」)、ふりかえりなどの活動を体験して、体験学習法の手法を学んだ。

**子どもたちへの実践：**公募により一般の子どもたち約60人が参加。参加者は学んだアクティビティを子どもたちに実践し、足型取りというプログラムを経て、体験学習法への理解を深め



た。活動は全てリーダー2人と子どもたち5人というグループで行った。

**足型取り：**様々な道具を使って、飼育係の意見を聞きながら、子ども動物園「ぴーちくパーク」内の動物の足型を取る。まずぴーちくパークの下見を行い、実際に動物に触れることで足型が取れるかどうかを調査した。その後、各班毎に話し合い、どんな道具を使い、どうやって足型を取るかという計画書を作成した。計画書は飼育係に見てもらい、アドバイスをもらった。翌日、計画書

をもとに、足型取りを実践した。粘土を使ってポニーやウズラの足型を取る。墨や絵の具を使ってウサギやヤギ、ブタの足型を取る。紙粘土を使ってクジャクの足跡を型取る。など、様々な手法を見ることが出来た。最後に発表会を行った。

**ふりかえり：**参加者は子どもたち解散後、全体のふりかえりを行った。

**開発プログラム実践：**自分たちで計画を立て、それにのっとり足型取りを実践することで、子どもたちの中で参加意識や目的をはっきりさせる事ができた。子どもたち側のケアと、動物のケアを同時に行わねばならず、人手が必要なことが分かった。

**教育普及：**まだまだなじみの薄い体験学習法を学ぶことで、学習プログラムを実践する上での手法的な整理ができ、活動の幅が広がったことだろう。また、それを子どもたちに実践することにより、理解を深め、自分の課題などを見つけることができただろう。時間的にタイトなスケジュールで行ったため、自分の体験を十分にふりかえることができず、また、子どもたちとの関係作りに重点が移ってしまったことが残念だが、これから参加者各自が一連の手法を反芻し、理解することで、各園館での学習プログラム作りに役立てていただくことができるだろう。

**記録：**開催協力：広島市安佐動物公園、人間科学研究所。宿泊：広島市青少年野外活動センター。検討委員：大丸秀士(広島市安佐動物公園)、並木美砂子(千葉市動物公園)、加藤由子(動物作家)、赤見理恵(市民ZOOネットワーク/東京大学産学官連携研究員)。取材：NHK広島、中国新聞、他地元テレビ局。

